

教科横断型学習指導案（SS 英語Ⅱ × 地学基礎）

1 日 時 令和4年12月12日（月） 3限目（10:35～11:25）

2 学 年 第2学年1組（文系）39名

3 指導者 永山 愛子（英語）、古野 正博（地学）

4 教 材

SS 英語Ⅱ： *UNLOCK 2 Reading, Writing & Critical Thinking STUDENT'S BOOK*（Cambridge University Press）

UNIT 4 Weather and climate

地学基礎： 『地学基礎 改訂版』（啓林館）

第2部 第3章 日本の天気

5 教材観

CEFR A2 レベルの英語で書かれたテキストで、学校設定科目「SS 英語Ⅰ・Ⅱ」で使用している。社会文化・科学・情報工学・スポーツ科学などのさまざまな分野に関するビデオを視聴したり、トピックを読んだりして、批判的思考力を養う。本単元は天気と気候に関する内容で、竜巻調査に関する映像を視聴後、異常気象（台風、熱波と干ばつ、暴風雨、砂嵐）や砂漠を移動する際の注意点についての説明文を読み、文章形式から英文のジャンルを推測させたり、記述内容に基づいて自己の体験を共有・発表させたりしながら、気候変動や異常気象について考えさせることができる。また、気温や降水量を表すグラフを分析し、その特徴から推測される異常気象等について考えたり、分析した内容を英文にまとめたりする活動を行うことで、資料を読み解く力や文章構成力などを養うことができる。本単元を通して学んだ語彙や表現等を活用し、世界の気候だけでなく日本の気候について、気象データに基づき分析・考察することで、日本の気候・天気に関する理解を深め、気候変動に関する課題解決に向けた思考を促すよう指導したい。

6 生徒観

本クラスは文系習熟度クラスである。ほぼ全員が大学進学を目指しており、文学、経済、法律、教育などの人に関わる分野に関心がある生徒が多い。英語学習には意欲的な生徒が多く、授業中の協働学習においても積極的に意見を交わしながら理解を深めようとしたり、工夫して相手に伝えようしたりする姿が見られる。一方で、文法項目の基本事項の理解が曖昧なまま正確性を欠き、英文を雰囲気だけで日本語訳をするなどまだ基礎基本の定着が甘い生徒がいるため、1年次の復習を塗り重ねながら、英語で自己表現することへの自信と正確性の向上をはかり、達成感を感じられるような授業を展開していきたい。

7 単元の計画（英語）

(1) 単元の目標

気候・天気に関する説明を聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えを話したり書いたりして伝え合うことができる。

(2) 単元の評価規準

「読むこと」の評価規準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・文章を読み取るために必要な気象に関する語彙や表現、比較表現の意味や働きを理解している。	・自分（たち）の考えを発表するために、気温および降水量を表すグラフを適切に分析し、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	・自分（たち）の考えを発表するために、世界の気象に関する英文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。

「話すこと（発表）」の評価規準

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・情報や考えを述べるために必要な気象に関する語彙や表現を理解している。	・情報や考えを述べるために気温および降水量を表すグラフを適切に分析し、概要や要点、詳細を整理して捉えて伝えている。	・情報や考えを述べるために世界の気象に関心をもち、気候変動や異常気象がもたらす問題について、聞いたり読んだりしたことを活用して意見を伝えようとしている。

(3) 単元の指導と評価の計画

次	配当時間	学習内容・学習活動	知	思	態	備考
1	2	<p>Watch and Listen</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆気象に関する生徒の興味・関心を喚起する。 ・竜巻に関する動画を視聴し、気象や天気に関する語彙や表現を理解する。 ・国内外で発生する異常気象について情報を共有し、そこでの人々の暮らしを想起する。 ・ALTとJTEのNews reportのスキットを見て、必要な表現を理解する。 <p>Presentation (Skit)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆異常気象について、相手に必要な情報を整理し、伝える。 ・異常気象を一つ取り上げ、インターネット等を 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・活動全体を通して生徒の様子を観察する。 ・プレゼンテーションはグループで行い、発表内容や活動状況を見て「思考・判

		<p>利用して情報を集め、整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニュースキャスターになりきって、異常気象について必要な情報を伝える。 				<p>断・表現」および「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>
2	1	<p>Reading 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆気象に関するトピックから必要な情報を得たり、要点を捉えたりする。 ・異常気象に関する記述を読み、それぞれの特徴的な現象について理解する。 ・気象用語と共起しやすい表現について理解する。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動状況に合わせて適宜補足説明を加え、学習内容の復習を行う。
3	1	<p>Reading 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆砂漠に関するトピックやグラフから概要や要点を捉え、気温や降水量に関する表現を理解する。 ・サハラ砂漠を旅行する際の注意点を読み、必要な情報を整理し、意見交換する。 ・異常気象にあった際、生き残るためにはどうすればよいかグループで話し合い、まとめた考えを発表する。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動状況に合わせて適宜補足説明を加え、学習内容の復習を行う。
4	3 ~ 4	<p>Critical Thinking and Writing</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆グラフを分析し、データに基づいて英文でまとめる。 ・気温と降水量に関する表現を理解し、共起しやすい語彙を用いて、簡単なグラフを説明する。 ・ノルウェーとヨルダンのそれぞれの都市の気温と降水量のグラフから読み取れる気候や天気を推測し、起こりうる異常気象について話し合う。 ・上記の2都市のグラフから得られる情報をまとめ、興味や関心を持った点について英文で書く。 <p>Presentation 2 (Group Discussion)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆日本国内6ヶ所の気温および降水量のグラフを見て特徴を挙げて、どの都市のものか考える。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを配付し、英作文を完成させて提出させる。英文の内容から「思考・判断・表現」を評価する。 ・グループ活動の様子を観察する。

8 本時の目標および評価規準

(1) 本時の目標

- ・日本国内6つの都市の気温と降水量のグラフをそれぞれ分析し、英語で説明する。
- ・グラフから読み取った情報や与えられた資料を参考に、各都市で行われている気候変動に対する対策や特徴的な気候を生かした暮らしについて、英語で発表する。

(2) 評価規準

「話すこと（発表）」の評価規準

①知識・理解	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・情報や考えを述べるために天候や天気に関する語彙や表現を理解している。	・情報や考えを述べるために与えられた情報に基づいて英語で伝えている。	・情報や考えを述べるために世界の気象に関心をもち、気候変動や異常気象がもたらす問題について、聞いたり読んだりしたことを活用して意見を伝えようとしている。

(3) 本時の展開

	学習内容・学習活動	時間 配当	学習 形態	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	Review (単元の復習) ・気象やグラフに関する語彙の確認 (永)	2	ペア 個人	・これまで学習した内容で本時の活動でスムーズに活用できるようにする。 ・SSE II の学習内容と、地学基礎の学習内容をうまく英語でリンクできるようにする。	活動の観察
展開	① Analyzing graphs (グラフ分析) ・都市名を伏せた a~f の6つの都市(札幌, 山形, 東京, 宮崎, 鹿児島, 那覇)の年間降水量・年間の最低, 最高気温・平均日照時間のグラフを分析して, どの都市のものかを推測する。(永) ② Presentation (発表) ・各グループで分析・推測した内容について, 理由を添えて英語で発表する。(永)	8 8	グループ (6~7 ×6)	・Google Classroomおよびスライドで6つの都市のグラフを生徒に提示し, 自分が担当する都市のグラフと比較できるようにする。 ・スライドで各グラフを示し, 説明しやすいよう配慮する。	活動の観察を中心に机間巡視を行い, 生徒の活動を見届ける。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地学基礎で学習した内容とリンクさせ、気候の特徴を捉える。(古) <p>③ Sharing ideas</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各都市の気候変動に対する取り組み等の資料を元に、有益な取り組みを他グループに英語で紹介する。(永・古) 	2 26		<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を踏まえ、各都市の気候の特徴や傾向などを確認させる。 ・用意した資料を Google Classroom で配信, SDGs の視点も織り交ぜながら、よりよい暮らしを送るためにわたしたちにできることを考えるよう促す。 	
まとめ	<p>Self-evaluation (本時の振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シートに記入し, 各自で本時の活動を振り返る 	4	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シートを記入・提出させ, 本時の振り返りをさせる 	「知識・理解」および「思考・判断・表現」を評価する。

(4) 授業において工夫した点 生徒の活動をスパイラルで高次化させる

- ・ SS 英語Ⅱの要素であるデータ分析を英語で行ったことに加え, 学習した世界の気象に関する知識を踏まえて, グループ活動を中心に意見交換することで日本国内の気候に関する問題点に気づけるようにした。
- ・ 生徒の活動が2つの教科の知識を活用して行えるように, 机間巡視やスライドで支援しながら進める。
- ・ 生徒の思考力・判断力・表現力を育成するために, 必要最小限の資料・情報を与えることで, 英語と地学の両方の既習事項を基に課題解決が図れるよう工夫した。